

其ノ一歩

哨

0684

〔其ノ一、歩哨〕

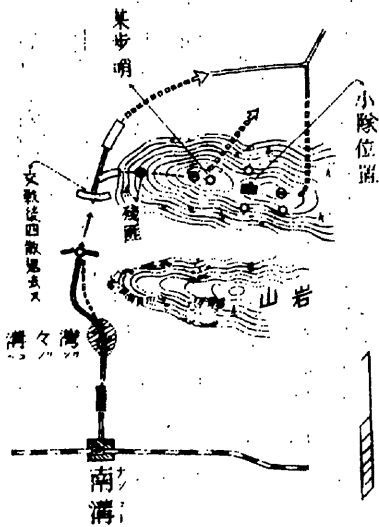
目次

- 一、一死以テ歩哨ノ任務ヲ完ツセル戦例……………(三五)
- 二、下士哨ノ沈著ナル射撃ニ依リ
越境「ソ機」ニ大ナル損害ヲ與ヘタル戦例……………(三六)
- 三、歩哨ノ動作不十分ノ爲苦戦ニ陥リタル戦例……………(三七)
- 四、歩哨ハ沈著剛膽ナルヲ要スベキ戦例……………(三八)
- 五、歩哨ノ沈著ヲ缺キ報告ノ動作
適切ナラザリシ爲好機ヲ逸シタル戦例……………(三九)

0685

一、一死以テ步哨ノ任務ヲ完ウセル戦例

昭和十二年、當小隊ハ南溝分遣隊トシテ、某中尉以下一六名服務中、溝々溝集團部落（南溝北方約六軒）ニ系統不明ノ匪賊約八〇名現出セルノ情報ニ接シ、隊長以下二五名（自衛團一三名ヲ含ム）ハ七月九日午前八



時出發、該地ニ到着シタル時ハ既ニ遁走後ナルヲ以テ、足跡ヲ辿リ急追、午後五時頃匪影ヲ發見、之ヲ攻撃セシニ密林ヲ利用シ、彼ハ四散シタルガ爲、主力ヲ退路ヲ遮斷スベク右廻ヲナシ、岩山北方約六軒ノ地點山上ニ到着セルモ、當日ハ雨天ト密林トニ依リ、午後七時頃ナルモ、戦友相互ノ顔サヘ判然トセザル状態ナリキ。

小隊ハ晝食ヲナサズ追撃シ來レルヲ以テ、先ヅ夕食ヲナス爲凹地ニ位置シ、步哨ヲ三方ニ配置、焚火ヲ以テ衣類ヲ乾燥シナガラ休憩シ、午後八時ヨリ某一等兵服務中前方ニ何者カ現ハレ、步哨ハ地上ヲ通シ見タルモ判明セズ。誰何

ヲナシタル時ハ歩哨前三米位近接シ、更ニ二度、三度目ノ誰何ヲナサントセシ機ニ先ンジ發砲サレ、敵彈ハ左肩ヨリ右脇部ヲ貫通セリ。

小隊ハ「ソレ」ト、歩哨ノ位置ニ馳付ケ包圍シ該匪一名ヲ射殺シ後、極度ノ暗夜ト負傷者ノ手當ニ依リ、夜明ケヲ待ツノ止ムナキニ到レリ。本戦闘ニ於テ特ニ美德トスル點。第一期終了ト共ニ分遣ヲ命ゼラレ、右ノ如キ結果トナリタルモ、成績優秀ニシテ、下士官候補者トシテ選抜サレ、常ニ責任觀念旺盛ナル良兵ナリシガ、今後歩哨トシテモ、自己ノ受傷セシ事ハ一言モ話サズ、「隊長殿敵ハ此ノ方向ニ退却致シマシタ。」ト、以前ト變ル事ナク地上ヲ通シ監視ニ任ジタリ。隊長ニ後退ヲ命ゼラレ、極度ノ出血ノ餘リ、約三時間後ニシテ、天皇陛下萬歲ヲ唱へ、永遠ニ護國ノ鬼ト化セリ。此ノ一等兵ノ忠君愛國心、軍人トシテノ本分ヲ死ニ到ル迄變ヘザル誠ニハ、隊長以下一同感泣セザルヲ得ザリシト共ニ、歩哨ノ誰何ノ時機方法ハ、新要務令改正案ニ依ル實際的教育ノ要アリ。

二、下士哨ノ沈著ナル射撃ニ依リ

越境「ソ機」ニ大ナル損害ヲ與ヘタル戰例

昭和十二年九月十七日、柳川部隊ノ長以下七名（以下略）ノ下士哨克ク越境セル「ソ」軍飛行機三機ヲ射撃

0687

一機ヲ不時着、二機ヲ目的ヲ達セシメズ撃退セリ。此ノ地ハ滿軍監視隊一個小隊ヲ約千米ノ地ニ控へ、平常何等異狀ナク、極メテ無事故ノ監視所ナリシモ、某上等兵ヲ長トセル當下士哨ハ、長以下極メテ緊張服務シアリシ爲、巧ニ山ヲ利用シ、蔭蔽近接シ來ル敵機(偵察機)三機ヲ見事射撃ヲ以テ其ノ目的ヲ達セサセズ逃走セシメタルノミナラズ、其ノ一機ヲシテ煙ヲ吐キツツ不時着セシメタリ。此ノ事件ニ依リ、極メテ平靜ナル場所ニアリテモ、常ニ戦闘準備ヲ缺ガサザルノ如何ニ肝要ナルカヲ教ヘラルルト共ニ、僅カ四十一發ノ小銃彈ニテ命中セルヲ眼ノ當リニ見テ、飛行機射撃ノ實施ノ必要ナルヲ痛感ス。

尙下士哨ノ射耗彈ハLG二五、小銃一六、計四十一發ナリ。

三、步哨ノ動作不十分ノ爲苦戦ニ陥リタル戦例

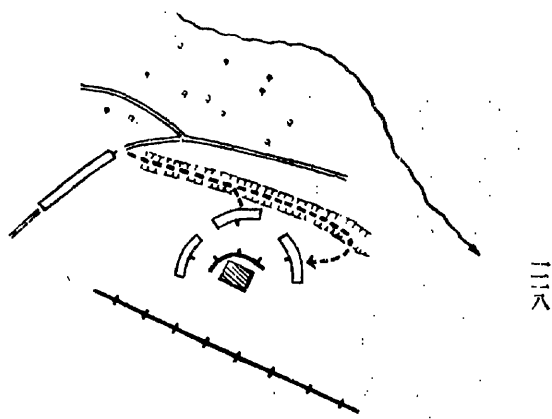
昭和七年十月三十日、撫順縣、營盤襲撃ノ情報ヲ得、小隊長徳永准尉以下三〇名、午後八時頃該地ニ到着警備ニ服ス。午前二時頃約四〇〇名ノ匪團ハ、前ノ地隙ヲ利用シテ近接シ夜襲ス。

夜遅ク到着セシ故、十分地形モ偵察セズ、尙防禦ノ處置モナサズ警備ニ就ク。步哨ハ初年兵ニシテ、然モ最初ノ出動故緊張ハナシアリシモ、夜間ノ訓練十分ナラズ。地形ノ暗識ハ勿論耳目ノ活動モ十分ナラズ。敵ハ事變直後ノ敗殘兵ニシテ、約四〇〇名全員匍匐シテ近接夜襲シ、相當苦戦ヲ爲ス。

- (1) 歩哨ヲ配置スル場合ハ、附近ノ地形ヲ十分偵察シ、之ニ對スル處置ヲ講ジ、歩哨ノ特別守則ヲ示シ置クヲ可トス。特ニ前方ニ地隙アル場合小、分隊長ハ近接察知ノ處置ヲナスヲ要ス。
- (2) 歩哨ハ報告ノ暇ナキ時ハ、急射撃ヲ以テ報告スルヲ要ス。此ノ急射撃ハ十分教育シ置カズバ、咄嗟ノ場合出來ザルモノナリ。

四、歩哨ハ沈著剛膽ナルヲ要スベキ戰例

昭和十一年四月〇日、田村部隊春季大討伐ニ際シ、第三中隊ハ勃利西北方大青山ノ掃蕩ニ任ジタリ。中隊ハ大青山ノ掃蕩ニ任ゼル事數日、積雪一米餘ノ道無キ山岳地帯ヲ踏破シツツ、毎夜ノ如ク氷雪ノ上ニ露營シ



0689

艱難辛苦ヲ犯シテ○日夕刻山寨ヲ發見シ、敵騎馬匪約五〇騎ヲ襲撃シ、之ヲ撃退セシメ、中隊ハ要圖ノ箇所ニ露營セリ。

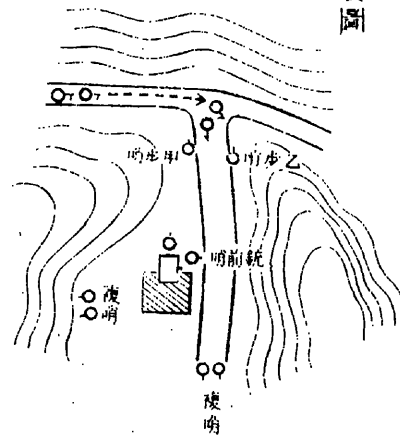
其ノ時捕虜ニセシ匪賊ノ言ニ依レバ、匪種ハ張尙志ノ部下ナリ。敗走セシ匪ハ○○村ニ行ケリ。其ノ他匪賊二名ハ目下勃利ノ○○匪ニ連絡中ナリ。概ネ本夜二時カ三時頃ニハ此ノ山寨ニ來ル事確實ナリト。

要圖ノ如ク中隊ハ複哨及ビ銃前哨ヲ配置シ警戒セリ。歩哨線ヲ出入リスルモノハ總テ之ヲ射殺スベシトノ特別守則ヲ授ケラル。

其ノ時午前三時十五分、果シテ二名ノ騎馬匪ガ山寨ニ近接シ來レリ。歩哨ハ當時第一期教育ヲ終了セシバカリノ初年兵ナルモ、克ク沈著剛膽ニシテ、先ヅ甲歩哨ガ先頭ニ來ル騎馬匪ヲ、歩哨線前約十米附近ニ近ヅケ、安全装置ヲ解キ、立姿勢ノ射撃姿勢ニテ暗夜克ク照準シ、一發ノモトニ心臟部ヲ撃チ貫キ即死セシメタリ。後續ノ騎馬匪ハ銃聲ニ驚キ直ニ逃走セントシタル時、乙歩哨モ亦機ヲ失セズ克ク照準シ、一發ノモトニ之ヲ即死セシメタリ。

當時ハ眞ノ暗夜ニシテ、若干ノ雪明リヲ利用スルヲ得タルモ、克ク沈著剛膽ニシテ任務ヲ完ウセリ。

要圖



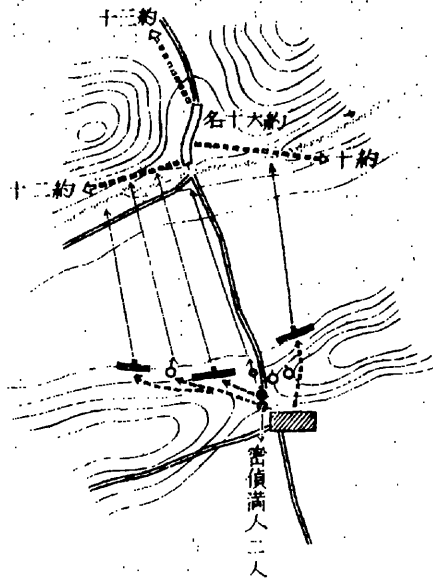
0690

五、步哨ノ沈著ヲ缺キ報告ノ動作

適切ナラサリシ爲好機ヲ逸シタル戦例

三〇

昭和十二年九月、小二子溝附近ヲ掃蕩スベク命ヲ受ケ、小隊長以下三八名（内MG一）ハ、午後三時頃小二



子溝南方一吉ノ稜線ニ到着、步哨二名ヲシテ、稜線
上ニ於テ前方ヲ警戒セシメ、南方斜面ニ於テ休憩セ
リ。程ナク怪シキ満人二名通過、之ヲ捕ヘ取調べタル
ニ、匪賊ノ密偵ラシキ點アルモ容易ニ白狀セズ。依ッ
テ步哨ニ嚴重ナル警戒ヲ命ジタリ。其ノ後約五分程シ
テ、匪賊約六〇名（匪首不明）ハ、我方ニ向ヒ前進シ
來レリ。

之ヲ発見セシ步哨ハ大聲ニテ小隊長ニ報告セシ爲、
敵ハ之ヲ察知シ逃走ヲ企テタル爲、直ニ上掲要圖ノ如
ク攻撃セシモ、遂ニ逃走セシメ好機ヲ逸セリ。

0691